

## 6 河川沿いゾーン

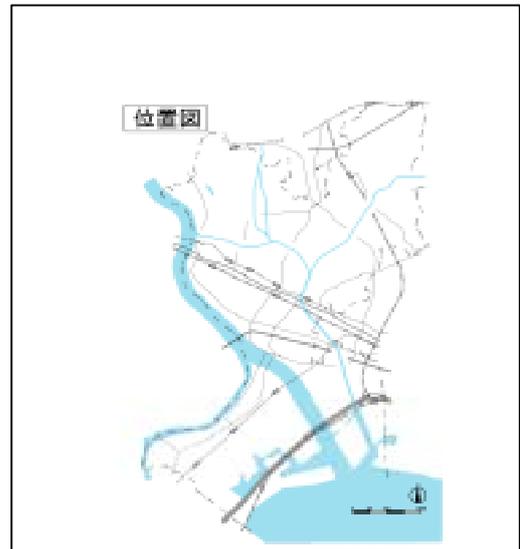
### [ 1 ] 河川沿いゾーンの基本要素と方針

#### 1) ゾーンの特性と基本要素

「河川沿いゾーン」は市の自然景観を代表する江戸川と本市の背骨となる真間川や大柏川、国分川、春木川などのまちなかを流れる河川などから構成されています。

これらの河川は、古来より地域に豊かな実りをもたらす一方で、災害を引き起こすなど、人々の暮らしと深い関わりを持ってきました。特に、江戸川は、江戸時代には関東各地の産物の江戸への運搬に盛んに利用され、このなかで、本市には江戸川の渡しがあって街道と水運の結節点としてまちがつくられてきたという歴史もあります。また、真間川や大柏川も肥料の運搬路となっていました。

このゾーンの特徴は、水辺・動植物などの自然と広がりある河川空間にあり、これらは都市化の進んだ本市における市民の貴重な財産となっています。



#### 基本要素

##### 広がりのある空間 江戸川・真間川など

本市を縁取る江戸川には雄大で開放的な河川の景観があります。また、真間川などの河川は、まちなかでは貴重な広がりのある空間となっています。

眺望点の限られたまちのなかで、河川は遠景を見渡せる大切な場であると同時に、人々が集い交流する場となっています。

##### 安らぎを感じる水辺 江戸川・真間川など

現在、河川には水上交通の場としての役割はほとんどありませんが、日常生活の中で人々が安らぐ水辺の空間として大切な役割を持っています。

##### 橋・並木など 真間川・大柏川など

河川に設けられた橋や堰などは、景観のアクセントとなっており、真間川の桜並木など、河川沿いの並木によっても季節感が演出され、地域に潤いを与えています。

##### 水辺の動植物 江戸川・大柏川など

河川は人々が憩う場であるだけでなく、動植物の重要な営みの場にもなっています。特に江戸川には、アシ原に生息するヒヌマイトトンボ、トビハゼを始め、多様な動植物が見られます。

## 2) 景観まちづくりの目標

**「美しい眺め」を守り、「水とのふれあい」をつくりましょう**

水辺・動植物などの自然を守りながら、広がりある河川空間を生かし、人々が憩いや安らぎを得られる、潤いのある川づくりと川沿いの景観づくりを進めます。

## 3) 景観まちづくりの方針

取り組みの主体 : 協働 : 市民・事業者 : 行政

### 自然豊かな景観を守り、水辺に親しめる場をつくる(江戸川沿い)

広い河原や自然の植生、生物環境の保全に努めるとともに、親水性の確保や景観を生かした活用を図る(学習やレクリエーション活動の場、景色を楽しむ歩行空間やサイクリングロード、視点場づくりなど)

水質の浄化、河川敷の美化に努め、ゴミのないきれいな川づくりを進める

江戸川へのわかりやすく快適なアクセスルートをつくる

江戸川スーパー堤防事業において水辺を生かした景観づくりに努める

- ・江戸川沿い.....自然性や広がりある景観に配慮した親水性の空間とする
- ・旧江戸川沿い...親水性を再生する(親水護岸、視点場、歩行空間の緑化等)

### まちなかの川を景観軸として、憩いと安らぎの景観を育てる

護岸の修景や水質の浄化に努め、川を憩いと安らぎの場とする

河川沿いの並木づくりなど、緑化をすすめる(地域のシンボルとなる並木による季節感の演出や民地での緑化)

市民参加により川の美化や住宅地の緑化に努め、川沿いに美しい景観を育む

快適な歩行者・自転車ルート、視点場、親水空間、サインなどを整備し、人々の交流を育む

河川の魅力を高めるような橋のデザインとしていく

### 広がりと連続性に配慮し、潤いある眺めを守り育てる

対岸からの景観にも配慮し、沿道の緑化や護岸の修景など、美しく連続性ある河川の景観を育てる(中高層建築物が連続する場合は特に配慮する)

建物を建てる場合は河川沿いにオープンスペースや緑地を設けるなど、川と一体となった広がりある空間をつくる(できる限り川から建物を離す)

地域の個性や川の性格に配慮しながら、橋や欄干のデザイン、色彩を工夫する

橋詰め広場や橋上のアルコープの整備などにより、良好な視点場を確保する

# 河川沿いの景観まちづくりのイメージ

景観を守り、水辺に親しめる場づくり



地域で川沿いの美化活動

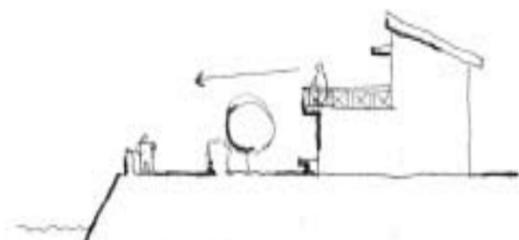


水に親しむイベント等の開催



川沿いの並木づくり

潤いのある眺めを守る



川に向けた建築デザイン



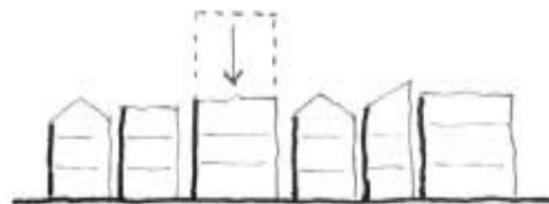
川から後退し広がりをもたせる



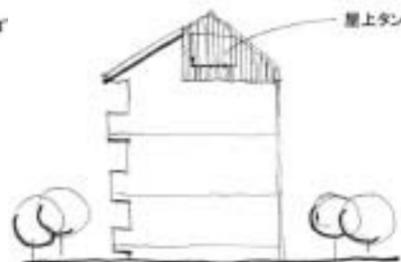
植栽の植栽の維持管理をきちんとする



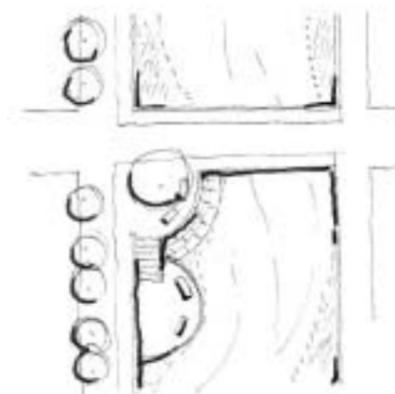
例えば屋根の色と傾斜をとりきめる



周囲の建築物とスカイラインを揃える



建築物と一体にデザインしたルーバーで隠す



橋詰め広場による視点場の確保

まちなかの軸として憩いと安らぎの景観づくり